

会 議 録

- 1 件 名 第5回アリーナ整備検討会議
- 2 日 時 令和7年4月30日(水) 10:30～12:00
- 3 場 所 本庁舎3階 第3会議室
- 4 会議内容

【10:30 開会】

(司会)

それでは皆様おそろいでございますので、ただいまから第5回アリーナ整備検討会議を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

司会を担当いたします、岡山市スポーツ文化部の宮本と申します。よろしくお願いいたします。

なお、本日は、岡山商工会議所スマートベニュー構想実現委員会延原委員長の代理として、岡山商工会議所森副会頭が出席されておられます。

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

まず、本日の次第でございます。次に、アリーナ整備検討会議のメンバー表、その次に配席表、次に資料1としまして、岡山市多目的屋内施設(アリーナ)整備に係る追加調査業務、資料2、BTコンセプション方式について、資料3、アリーナ整備手法に関する意見交換会の結果報告まとめについて、資料4、財源内訳についての岡山市の考え方、資料5、アリーナへの歩行者のアプローチについて、別冊として、企業版ふるさと納税リーフレット。最後に、番号はふってございませんが、この度新たに作成をしたイメージパース、以上となっております。

すべての資料がお手元にありますでしょうか。

それでは、開会にあたり、座長の大森岡山市長からご挨拶を申し上げます。

(大森座長)

皆さんおはようございます。

お忙しい中、第5回のアリーナ整備検討会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

会議の冒頭の挨拶ということではありますが、挨拶の前に、先日、商工会議所メンバー、そしてプロスポーツの方々、そして岡山市で沖縄のアリーナに行ってきました。

沖縄対長崎のバスケットの試合を見させていただきまして、このアリーナの雰囲気がよく出ております。

うちのスタッフが、少し動画を整理しておりますので、ご覧いただければと思います。

素人がやっておりますので、必ずしもいいものじゃないかもしれませんが、雰囲気だけは出ていると思いますのでよろしくお願いいたします。

(司会)

マスコミの方へ重ねてお願いでございます。

これから視察の映像を流しますが、撮影につきましてはお控えいただきますようお願い申し上げます。

(動画視聴)

(大森座長)

皆さんいかがでしたでしょうか。

何と言いますか、私は体育館とは似て非なるものと感じました。ここ(沖縄サントリーアリーナ)自身は、我々は空港からバスで行ったのですが、交通では不便な場所であり、ここにどれだけの人が集まるのかなという感じがあったのですが、実はこの4月20日の試合は、8,000人を超える人が集まっておりました。

皆さんの応援、それはジップアリーナでも、それぞれの試合の応援がありますが、それとは何か、少し質的にも異なるような風景であり、すばらしさを感じました。

もちろん、今日おられるプロスポーツの皆さん方に、そこで活躍をしていただく場の提供ということも1つですけれども、こういう施設があれば、岡山に多くの方が来ていただき、経済効果があるだけでなく、また、愛着と誇りを醸成できるものだと思いをいたしました。

そういうことで、今回5回目になりますが、今回の会議では、昨年度に実施した追加調査結果、また事業手法の検討、そして、寄付金の募集の開始について、皆様方と議論し、実現に向けて動きたいと思っております。

寄付金の話でもありますが、商工会議所、松田会頭以下の皆さん方に随分ご苦勞をおかけしているところでもあります。

しかしながら、県下全体にやはり利益や様々な効果をもたらすもの、これを岡山市民だけに負担をお願いするというわけにはなかなかいかず、県が参画しない中、経済界の皆さん方にも、一定額の負担をお願いしたいと思っております。

今日は、事業全体の財源構成を示し、市民の理解を得たいと思っております。

また、寄付金を募集する時に用意するリーフレット、これについても整理をさせていただきましたので、ご覧いただきたいと思っております。

それでは、今日、相当中身の濃い会議になると思っておりますので、忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは続きまして、副座長の岡山商工会議所、松田会頭からご挨拶をいただきたいと思っております。

松田会頭、お願いいたします。

(松田副座長)

おはようございます。

大森市長とともに沖縄のアリーナの視察をまいりました。

必ずあのような施設が必要だという思いをいたしました。

いくつか大手の企業、アリーナを運営している企業にも私足を運んで、その話を聞きましたけれども、今や、例えば経済的な活動、それから文化的な活動に加えて、スポーツとしての活動が街のやはり中にあるということで活力を生むということは間違いないな、という思いがしています。

そういった将来の夢を託せるようなアリーナの構想が、今の現実味を帯びておりますので、ぜひ、皆さんとともに実現したいと思っております。

よろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

大森市長、議事の進行をお願いいたします。

(大森座長)

はい、わかりました。それではお手元の資料の次第に沿いまして、進行してまいります。

まずは(1)追加調査結果についてということで、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課の吉田です。岡山市多目的屋内施設アリーナ整備に係る追加調査業務について、事務局よりご説明いたします。

資料 1 をご覧ください。本業務は、令和 5 年に策定いたしました基本計画に対する、皆様からの様々なご意見を踏まえ、最適な施設規模や施設構成、その規模に応じた概算事業費や事業採算性などについて調査を行ったもので、その結果について報告をさせていただきます。

なお本日ご説明いたします調査結果につきましては、前回、前々回の検討会議の場におきましてご紹介している内容も含まれておりますので、重複部分については簡易な説明とさせていただきます。

それでは、資料 1 の 1 ページ、1 本業務の目的、2 最適な客席規模についてとなります。

こちらは昨年 11 月の検討会議におきまして、本調査の受託事業者からご説明しておりますので、簡単に触れさせていただきます。

岡山市における最適なアリーナ規模についてですが、独立採算での運営を実現するためには、コンサート需要の取り込みが必要ということで、エンタメ事業者にヒアリングをした結果、岡山市の立地であれば、コンサート需要が十分に期待できるとのことでしたが、一方で、1 万人以上の大規模コンサートはコンサート需要の減少が想定されるとのことで、最大収容者数 1 万人、コンサート利用時 7,000 から 8,000 席が、最適な規模であるとの調査結果となっております。

続く、3 施設構成と機能、規模、4 概算事業費と、2 ページ目になりますが、5 事業採算性。

こちらにつきましても、昨年 12 月の検討会議において事務局よりご説明しておりますので、こちらも簡単にご説明させていただきます。

施設規模についてです。客席規模、コンサート利用時 7500 席と設定し、これは仮の設定となります。メインアリーナ、倉庫等の必要な諸室面積を加えた想定施設面積は約 2 万 6000 平米となっております。

概算事業費につきましては、想定施設面積である 2 万 6000 平米に他都市のアリーナ事例を参考とした整備単価、物価上昇率を掛け上げたもので算出しており、概算事業費といたしましては、275 から 280 億となっております。

続いて 2 ページ目をご覧ください。5 事業採算性についてです。

年間支出見込み額は、日本政策投資銀行発行の書籍を参考に算出した平米単価、こちらに床面積、先ほどの 2 万 6000 平米を掛けて算出しており、4 億 3,000 万円余となっております。

②年間収入見込みにつきましては、アリーナの利用形態をプロスポーツなどに分類した上で、地元トップチームがリーグのレギュレーションで求められる試合数や、他都市におけるコンサートでの利用回数と同等の利用、こちらを想定して算出しており、年間稼働率は 58%、年間収入は 4 億 1,000 万円余となっております。

年間収支だけを見ますと、現時点では若干のマイナスとなっておりますが、ネーミングライツや広告収入等による収入増がまだ検討できる余地があるということで、本事業につきましては、採算性を有しているとの結論となっております。

続いて2ページ目、右側の6、事業手法についてです。事業手法につきましては、基本計画時より、客席規模や事業費が変更となることを受け、改めて事業者ヒアリングと事業手法の評価を行ったものでございます。

基本計画時点では、DBO方式、デザインビルドオペレーション方式とPFI、BTO方式、ビルドトランスファーオペレーション方式について、2つの手法で検討しておりましたが、独立採算でのアリーナ運営を実現するためには、民間ノウハウの最大限の活用を可能とする、より自由度の高い運営を実現する必要があり、このたび、事業者運営権を付与するPFI、BT+コンセッション方式、こちらの方式を追加して評価しております。

結果といたしましては、事業の継続性をはじめとする3項目で、PFIのBT+コンセッション方式が二重丸となっており、トータルとして優れているとの結果となっております。

しかし、この手法は、岡山市では先例がないものとなるので、皆様にもわかりやすくということで、別紙により詳しくご説明をさせていただきたいと思っております。

一旦、資料2の方をご覧ください。

A4横のBT+コンセッション方式についてという資料となります。BT+コンセッション方式とは、PFI事業の1種であり、利用料金の徴収を行う公共施設等について、施設の所有権を公共が有したまま、その一部を公共施設等を運営権として民間事業者を設定するという事業方式となります。

下段、左の図をご覧ください。

こちらは、従来の発注方式のイメージとなります。

建設時は、設計建設費を市が負担し、運営時には、支出から収入を除いた不足部分について、市がサービス対価、いわゆる指定管理料として運営事業者へ支払う。そういったものが、これまでの形となっております。

これが右の図になります。

BT+コンセッション方式であれば、民間事業者運営権を渡すことで、設備投資による施設のバリューアップ、そういったことによる収入増、もしくは民間ノウハウを活用した支出の削減等が働き、運営による支出を超える収入を上げることが想定されます。

そして、想定される利益の一部を運営権対価という形で行政に還元していただける可能性もあるということになっておりますので、財政負担の削減効果も期待される事業手法とされております。

簡単ですが、BT+コンセッション方式についての説明は以上となります。

追加調査の資料の方へお戻りください。7番事業スケジュールにつきましては、事業者の募集提案から事業開始までの期間、こちらを約7年間と想定しております。

続きまして3ページをご覧ください。左側の8交通課題についてです。

規模の変更に伴い、駐車場利用台数の算出条件を見直した結果、トップスポーツチームの大会開催時に、最大で約1,000の来場が見込まれるとの結果となり、イベント開催時には混雑が発生する可能性があるため、公共交通への転換を中心とした各種施策を実施し、交通を分散させる必要があるとの結果となっております。

最後に、3ページの右側の9番、経済波及効果についてです。

先ほどの交通課題と同じく、施設規模の変更に伴う経済波及効果についても再度算出を行いました。

基本計画時は 17.5 万人の来場想定でございましたが、規模の拡大、コンサート利用の増加等により、年間来場者数が 46 万 6,000 人と増加したほか、県外からも多くの来場者が見込まれるということを踏まえ、20 年間で 2,800 億円を超える経済波及効果が想定されるとの結果となっております。

事務局からの説明は以上となります。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

続きまして(2)事業手法の検討でございます。

事業手法の検討については、岡山市にとって、最も有利な事業手法を公平な視点から検討すべきと考えて、本検討会議のメンバーの皆様への説明のうえ、学識経験者、日本政策投資銀行や経済界、そして地元トップチームの方々にお集まりをいただきまして、意見交換会を開催したところであります。

その際に取りまとめ役をお願いいたしました、三浦教授より協議結果についての報告をお願いいたします。

(三浦氏)

はい。環太平洋大学の三浦でございます。それでは座ったまま失礼いたします。

3 月 14 日に開催されました、アリーナ整備手法に関する意見交換会について、ご報告させていただきます。

正確性を期すために原稿を読み上げますことをご了承ください。

それでは資料 3 をご覧ください。

先ほど座長から説明がございましたように、この意見交換会は、事務局からの呼びかけによりまして、地元プロスポーツをオブザーバーとして、学識経験者、日本政策投資銀行及び経済界の方々が参加されました。

意見交換会に先立ち、独立採算による運営を可能とするアリーナの整備手法に関する勉強会が行われました。

講師は、政府が出資している株式会社民間資本等活用事業推進機構、官民連携支援センターの中嶋センター長が務められ、勉強会をもとに意見交換会が行われました。

岡山市では、これまで、アリーナ整備にあたっては、設計建設、運営管理を個別に発注する従来方式に比べ、これらを一括して発注することで民間ノウハウを活用できるDBO方式が資金調達コストも加味すると、有力な手法ではないかとの議論が進んでおりました。

しかしながら、この検討の段階で、DBO方式であっても、設計施工や管理運営などは個別の契約となり、建設と運営の主体が異なるため、PFI手法のようにSPC、特別目的会社が全業務に対し、全責任を方式に比べると、アリーナの仕様等が利用者にとって最適な結果とならない可能性があることがわかって参りました。

一方、PFI手法であれば、資金調達コストが高くなる可能性はありますが、SPCに対する金融機関による財政面でのモニタリングが実施されるほか、SPCの設立により、各構成員が倒産リスクから隔離されることで、事業の安定性が高まるというメリットがあります。

経済界、地元トップチーム、岡山市が目指す独立採算によるアリーナ運営の実現には、可能な限り民間ノウハウを活用する必要があります。

そういった中で、施設を公共が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定するコンセッション方式

は、民間事業者による、安定的で自由度の高い運営を実現する方式であることがわかりました。

内閣府官民連携支援センターの中嶋氏によれば、国においても、官民連携の推進に向けた具体的な取り組みとして、コンセッション方式の導入が推奨されており、導入目標件数も上方修正されているとのことでした。

なお、国内のスポーツ施設で、PFI方式により実施された 54 事業のうち、独立採算を前提するものは 8 件、そのうちコンセッション方式によるものが 7 件となっております。

アリーナのように収益性が見込める施設では、運営事業者による自由度の高い運営により、利益を上げられる環境を整備することは、独立採算の実現可能性を高めると考えられますので、PFI手法におけるBT+コンセッション方式がふさわしいのではないかと考えられました。

一方、コンセッション方式は導入から日が浅く、実績が少ない点は注意が必要と考えられます。

また事業者による自由な運営への過度の配慮により、岡山市であれば、地元トップスポーツチームの活動拠点の確保という公の目的が阻害される結果とならぬよう、適切な範囲での条件設定も必要です。

なおこの方式の採用にあたっては、民間事業者の参加希望者が必須であるため、地元トップチームの活動拠点の確保という目的を明確にした上で、事業者の参加意欲をしっかりと把握していくことが重要となります。

現在事務局へは、複数社から問い合わせがあるとのことですので、引き続き丁寧なコミュニケーションを取り、しっかり見極めていただくようお願いしたいと思います。

最後に、このアリーナ議論の目的を鑑みますと、岡山シーガルズ、トライフープ岡山、岡山リベッツという 3 チームが、アリーナのコンテンツとしての魅力を一層高めていく努力はもちろん、選手一人一人がアリーナの必要性について、もっとしっかり声を上げて、多くのファン、市民県民の理解を得ていくことも大変重要であると考えます。

私からは以上でございます。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

事務局から追加調査の事業報告がありました。

そして、三浦先生から、意見交換会の結果報告がありました。ご尽力いただきましてありがとうございました。

事業手法について、今、三浦教授から話された点などをまとめてみますと、我々は今回、運営については独立採算でやっていこうということの方針として整理をさせていただいております。

従いまして、民間のノウハウを最大限生かしていく、これが必要だということでもあります。

2点目は、アリーナという、収益が期待できる施設については、コンセッション方式も今次第に増えてきているところであり、国も推奨しているということもありました。

ただ、導入から日が浅く、実績が少ない点は考慮するようという、三浦先生からのお話もあったところではありますが、現在、事務局の方には、このコンセッション方式において、我々も参加したいというような意思表示がいくつかのところからもなされているということもあったところでもあります。

これらを全体総合いたしますと、岡山市として今まで前例があるわけではございませんが、BT+コンセッション方式の採用を検討していくべきではないか、ということを考えているところでもあります。

追加調査の結果、そして三浦先生のまとめ、これについてご質問、ご意見などあればお願いをしたいと思います。

どうでしょうか。

(ご質問、ご意見なし)

よろしいでしょうか。では、そういう方向で進めさせていただきます。

次は、寄付の募集について、に入りたいと思います。

現在、商工会議所を中心に頑張っていたいただいているところではありますが、まずはアリーナとは一体どういうものなのか、という説明ができるツールがないというお話もあり、また、そのツールとして、新たなパースを入れたリーフレット、こういったものを作るべきだということもご指摘をされましたので、整理をさせていただきました。

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

はい。それではこのたび作成いたしました、リーフレットについて事務局よりご説明いたします。

本日の資料の、別冊につけておりますリーフレットのほうをご覧ください。

まず、表紙をご確認ください。

岡山の未来を創り出すアリーナと題して、ページ右側にアリーナの必要性や、アリーナが生み出す効果など、こちらを導入メッセージとして記載しております。

次に、1 ページをご覧ください。

岡山市の魅力・潜在能力として、岡山市の人口規模や、セールスポイント、こちらを紹介しております。

岡山市が持つ、中四国地方の交通結節点としての強みとして、JRで約 1 時間以内に岡山にアクセスできる都市、こちらの人口規模を足し上げますと 1,000 万人超となると、こういった部分を強調しております。

続きまして、2 ページでは、想定するアリーナの規模や事業スケジュールの他、建設予定地と周辺環境などについてご紹介しております。

続きまして、3 ページをご覧ください。

上段が昨年度、実施いたしましたWebアンケートの結果の概要につきまして記載しております。

期待する効果や、行ってみたいイベントの上位の回答を記載することで、わかりやすく表現しております。

ページ中段には期待される効果の中でも関心の高かった県内への経済波及効果について、20 年間で 2,800 億円超という追加調査での結果をご紹介するとともに、地元トップチームの選手の声を紹介しております。

続きまして、4 ページをご覧ください。

我々の目指すアリーナのイメージとなります。

同規模の、沖縄のアリーナの写真等を活用し、地元トップチームが躍動するとともに、コンサートやMIC Eなどに多目的に活用される、今までの岡山にはなかったドキドキワクワクを生み出す施設であるという点をイメージいただけるように作成いたしました。

続きまして、5 ページ、6 ページとなります。

こちらは、企業版ふるさと納税制度についての説明となります。

岡山市外に本社がある企業で、10 万円以上の寄付が対象となる点や、寄付額の最大約 9 割の税負担の軽減、こちらが受けられるという、企業版ふるさと納税制度の仕組みについて、事例を交えて解説しております。

6 ページでは、アリーナに設置される芳名板への企業名の掲出といった特典や、Q&Aなどを記載しております。

なお、特典の詳細は現時点では未定となっている点については、ご注意願います。

また、市内企業などが寄付した場合の寄付控除や、個人版ふるさと納税制度の説明として、一枚チラシを別途追加しております。こちらはご参考までにご確認いただければと思います。

次に、最終ページとなります。

最後のページ、寄付の方法、問い合わせ窓口などのほか、このたび作成いたしましたアリーナの新しいイメージパースとともに、岡山の未来を創り出すアリーナへの応援をお願いいたしますというメッセージを記載しております。

この度、作成いたしました新しい外観パースにつきましては、別途A3 枚もので今日の資料に添付しておりますので、こちらの方は別途ご確認いただければと思います。

リーフレットにつきましてはの説明は以上です。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

リーフレットに関しまして、どうでしょうか、ご意見ございますでしょうか。

はい。どうぞ。

(高谷氏)

ご説明ありがとうございました。

1 点ですが、非常にいいパンフレットができて、これで説明をしやすくなると思うのですが、スポーツとコンサートというのは非常に表現されているのですが、MICEというか展示会というか、MICE系ですよ。

1 つだけ展示会というのが 4 ページにあるぐらいで、もう少し見出しとしても、経済の展示会を含めて表現をもう少しわかりやすくしておいていただければ、本当に 3 つの柱で躍動するアリーナができますよ、ということが言えそうなので、もし修正が効くようであれば、ぜひその辺りも、経済界としてお願いしておきたいと思います。

以上です。

(事務局)

ありがとうございます。

今後の改訂の際には検討いたします。

(三浦氏)

この、市民県民の、私ぐらいの世代の立場を考えると、やはりアリーナと体育館の違いがよくわからないという声を一般の方から聞くので、例えば体育館を超えるアリーナであるとか、何か違うことがわかるような文言を入れていただくと説明しやすいかなと思いました。

(大森座長)

そうなんですよ。私、何回かアリーナに行ったことがあります。先ほどの沖縄のアリーナで琉球対長崎のバスケットの試合を見たら、全く違いますよね。

こういうのをどうやってわかっていただくのか。

今の三浦教授の言葉だけでもやはりよくわからないところがありまして、そのあたり何か事務局ありますか。

(事務局)

事務局といたしましては、これまで岡山にはなかったという表現を使わせていただいているのですが、今後、先ほどのアドバイスを参考にさせていただきまして、体育館とは別なものが感じていただけるように、検討を進めて参ります。

(三村氏)

皆さんの感想の中で、アリーナと体育館の大きな違いは、体育館はスポーツをする施設、アリーナはエンターテインメント性のあるスポーツ、あるいはエンターテインメントそのものを魅せる、演出する施設である点に違いがあり、その点を強調すべきであると思います。

(大森座長)

修正できるのであれば修正していただきたいと思いますが、ただ、私、なかなかこのような文章で書いてもわからないのかもしれないなど。

これからの寄付の話が出てきます。経済界とプロスポーツ界と岡山市で様々なところをお願いしに行かなくてはならないわけですが、私は先ほど最初に動画を見ていただきましたよね。あれはもう2分ぐらいのものなので、あれを持っていくっていうことが必要なのではないかなと思っています。

見たことのない人になかなか説明というのは難しいので、百聞は一見に如かずということで、見ていただいて、ご理解をいただくっていうのがいいのかなと。

(田口顧問)

携帯の中に動画を入れておいて。

(大森座長)

はい、議長の方からまた新たな提案もありましたので、動画をそれぞれLINEなどで送って、みんなで見てもらう。こういうやり方もあるかなということであります。

文章もできるだけの表現ぶりはちょっと考えるようにしてもらって、あわせて皆さん方にも動画が行き渡るようにもした方がいいのかなという感じもします。

他にどうでしょうか。

はいどうぞ。

(林氏)

はい。

パンフレット作成ありがとうございます。私も一言だけ。

3ページ4ページの、アリーナへの期待であるとか、効果であるとか、こういったものを例えばSDGsの17のゴールでそれぞれのゴールに対してどのように貢献できるのか、というようなことがあると、企業さん側も、SDGsの取り組みは社会的に求められていることなので、理解が早いのではないかと。共通言語と

してのSDGs。

スポーツがもっと社会的価値として、どのように貢献できるのかと。そういうことに対して企業側も、その貢献に対して一緒にやっていきましょうというようなことがメッセージとして伝えやすくなるのではないかなと思いますので、何らかの形で、SDGsの17のゴールの関係で伝えられるようなフレーズとか、図であるとか、そういうところが盛り込めるようでしたら、ご検討いただければと思います。

以上です。

(大森座長)

はい。

事前にいろいろなお話を聞いてくべきだという感じもしますけども、ちょっと検討してください。

(三村氏)

本日、事業方針案まで含めて、具体的な方向性が示されたことに、本当に感激しています。

さて、先々週、瀬戸芸の開会を受け、高松市にて、高松商工会議所の副会頭、専務理事と共に、香川県アリーナの活用を核とした高松市エリア全体の活性化を議論する機会を頂きました。

高松駅周辺では、新アリーナを拠点に、駅前に大学が進出、交通政策を含め、卸売市場を全面的改装、観光性を創出するなど総合戦略が展開中です。

一方、岡山市は、SDGsやESDの活動拠点都市である点を踏まえ、岡山商工会議所様が進める1kmスクエア構想に新アリーナが入っています。

動画作成では、新アリーナは、国内外から人を呼び込み、おかやま全体に経済効果を創出する拠点であり、従来の体育館には無い魅力あるアリーナにより、ふるさと納税にも弾みが付く点をPR頂きたいです。

以上でございます。

(大森座長)

非常におっしゃっていること、もっともなところがあるので、今、なかなか急にこうしますと答えられないかもしれませんがけれども、どんどんブラッシュアップしていけばいいので、ぜひ、検討してください。

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、このリーフレットをもって、様々なところに説明をさせていただきたいと思います。

続きまして、寄附の募集関係であります。今の寄付金集めのためのリーフレット、という形にもなっているわけですが、この寄付金集めを進めるにあたって、岡山市として、このアリーナの財源内訳というのを整理させていただきましたので、事務局から説明をさせます。

(事務局)

それではアリーナの財源内訳についての岡山市の考え方について、事務局よりご説明いたします。

資料4をご覧ください。

アリーナの現時点での概算事業費280億円における、財源イメージについて、図でお示しております。

概算事業費280億円のうち、オレンジ色の部分、国の防災安全交付金。こちら、国の補助金として90億円を見込んでおります。この交付金は、防災関係経費とされる部分が補助対象経費となります。その経費に対しまして補助率2分の1の交付金、補助金を受けられるという制度となっております。

防災関連部分の経費といたしまして、約 180 億円と見込んでおり、その 2 分の 1 である約 90 億円が措置されとの想定となっております。

防災関連経費約 180 億円のうち、補助金によって賄われない部分、90 億円分については、国の有利な財政措置を受けられる、起債が活用できますので、この残りの 90 億円部分につきましては、岡山市において起債により対応していく予定としております。

それらを除いた残りの部分、赤字で囲んでおります 100 億円についてです。

岡山市としては、このアリーナ整備事業は岡山市だけでなく、岡山市外へも様々な効果を及ぼすものと考えております。

このような事業を岡山市民の負担のみで実施することは、岡山市民の理解を得にくいと考えております。

これまでの調査における経済波及効果の結果を勘案いたしますと、経済波及効果の半分程度が市外に波及すると考えられますので、岡山市といたしましては、半分の 50 億円程度が岡山市の負担として妥当な額であると考えており、残り半分、薄緑色の部分になります 50 億円について、経済界トップチーム、そして岡山市が協力して、新たな財源の確保が必要になるものと考えております。

事務局からの説明は以上です。

(大森座長)

はい。ありがとうございました。

今、財源内訳の説明がありましたけれどもこれについてご意見がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは私として、少しまとめさせていただきます。

アリーナは、市内外に広く、様々な効果をもたらすだけでなく、とりわけ、若い世代に夢を与え、岡山への誇りや愛着を生み出すという点で進めていくべきだと考えております。

アリーナが県内全域の利益となる事業にもかかわらず、岡山県の参画がない中で、岡山市民のみに事業費の負担を求めることは、なかなか市民に説明できにくい状況であります。

従いまして、アリーナの実現に向けては、市民の納得が必須であります。

経済界、トップチーム、岡山市が一体となって、寄付募集などによって、この 50 億円の負担をできるだけ集めていくように頑張っていきたいと思っております。

以上で、今日の議題を終わらしていただきたいと思いますが、まだ時間もございます。せっかくの機会でございますので、それぞれの委員の皆さん方から、今回のプロジェクト、今までの議論、そして、今後様々な形で、それぞれが動いていく必要が出てまいります。

それらについての、方向性、また、自らの動き、考え方、何でも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。

恐縮ですが、松田会頭から、高谷さん、森さんというように動かさせていただいて、最後、田口さんということやらせてもらいます。

それでは、松田会頭よろしく申し上げます。

(松田副座長)

はい。

大変有意義な会議を開催させていただいておりまして、ありがとうございます。

私ども商工会議所は、515 の拠点が全国にございますけれども、すべての拠点が抱えている問題というのは、もうすべからく東京 1 極集中、人口の減少、高齢化と少子化、というようなことで、将来的には人口が減っていくというふうなことが予想される中での地方創生をどうするか、ということが一番のテーマでございますけれども、今若い人たちが都会に流出していく大きな原因の 1 つとして、地域に魅力ある、若者たちにとって魅力がある企業があるかどうかということが言われています。

ただそればかりではなくて、要するに若い人たちにとってその拠点がどういう魅力を持つかという中には、文化性であったり、スポーツであったり、エンターテインメントであったりという、やはり、そこにいて楽しい、その地域が活性化している、ということが非常に重要なことだろうと思います。

そういった意味で、私ども、アリーナの必要性というのは十分に感じておりますし、自分たちが楽しむということばかりではなくて、今、子供たちが将来どのような拠点を中心にして、この地域にとどまってくれるか、あるいはこの地域で将来を過ごしてくれるかということを考えると、できるだけ他の地域にはない優れた拠点性という意味でのアリーナが欲しい、というように考えております。

今、市長からご説明がありました財源の内訳について、残り 50 億円ぐらいがまだ決まってないというような状況になっておりますけれども、行政としての岡山市、そしてトップスポーツチーム、我々企業を含めて一体となって、この残りのものについてどのようにしていくかというのを、今後進めていきたいと思っております。

我々、企業にとってどこまでいけるかというのは、不確定な要素が多いものですから、実数値として未だにお示していくことはできませんけれども、ただマイルストーン的に、例えば 10 億円 20 億円 30 億円 40 億円というような、前に進んでいくたびにそういった数値をクリアしていくというやり方もあるかなと考えています。

まずは 10 億円をクリアするということで、できるだけ早くそこを固めていって、次のステップに進むというやり方をしていければと考えておりますので、ぜひご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思っております。

(高谷氏)

失礼いたします。

商工会議所の高谷でございます。

本当に、今日、全体の骨格が非常によくわかるご説明をいただきましてありがとうございます。

実は先日、田口議長はじめ、市議の皆さんと商工会議所のメンバーと一緒にサンノゼに行っていました。

70 周年に向かったの、ということもありましたが、サンノゼのアリーナをともに市議の先生方と一緒に体験をさせていただいて、その中での地域の皆さんの笑顔、これを一緒に体験でき、非常に有意義な時間を過ごさせていただいたと思っております。

その中で、その運営の副社長が、さっき言い忘れたのですが、すごい言葉を言われました。

このアリーナは経済発展、文化、音楽、教育のすべてをできる、そういったアリーナであると。私はこのアリーナの重要性の言葉を聞いて鳥肌が立ちました。

ともすると、スポーツだけとか、何々だけというよりも、やはりこの教育とか文化。

この言葉も含めて、岡山にはこのアリーナの重要性があるというように、本当に実感をさせていただきました。

その中で、今、商工会議所としても、県下に 12 商工会議所があります。今、市長からお話あったように、岡山市が中心になるのですが、県下の商工会議所が一体となって、この募金活動に取り組むべく、これから岡山商工会議所も真剣に、自分ごととして邁進してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願

いします。

以上です。

(森氏)

失礼します。

延原さんの代理でまいりまして、もう代理が代理でなくなってきておりますけれども、副会長の森でございます。

サンノゼのご報告については先ほど高谷副会頭が述べられた通り、私も一緒させていただいております。サンノゼのアリーナはアイスホッケーのシャークスというチームの本拠地で、収容人数が1万7,000人、VIPルームが確か40ぐらいありましたでしょうか。1個当たり2,000から3,000万で売りますので、そのVIPの数が年間売れているだけでも相当数収入上がっているということで、完全に独立採算で収益をしっかりと上げているという状況をお聞きしました。

建って30年でして、大規模改修工事をもうすでに予定されていると。それも相当なお金をかけて、また近代化を図るといふ。十分見た感じで近代化がされておりますが、またさらに加えて改修がされるということをお聞きまして、非常に可能性があるなど。

サンノゼ地域にあるプロスポーツチームはシャークスひとつでございます。だからあのベイエリアで、たくさんプロスポーツ、メジャーリーグもあるし、ありとあらゆるものがありますけれども、サンノゼの町としてはシャークスを応援しているという体制がもう本当に行き届いていて、1つ3万円、4万円をするチームのユニフォームをみんな着ていて、みんな太ってくるという。

ただ、リーグ最下位でした。全然強くはありませんが、でも、それだけみんなの耳目を集めているというところは、もう本当に1つカルチャーになっているし、30年先を行っていただけますけど、我々岡山もこういった施設を持つことで、地元愛をさらに醸成することができるかなと思います。

私はファジアーノに関係しているもので、どうしてもそちらの方に目が行くのですが、J1になってから、この岡山の地の利のポテンシャルというのを改めて感じておりまして、本当に毎試合満員御礼いただいて、多くのアウェーのお客様方が大勢ユニフォームを着て岡山市内、県内に入ってらっしゃる。

前日翌日などの動向を見ていると、美咲町の玉子をされている方が、ユニフォーム着てわざわざ玉子を食べに寄ってくださっているということをお聞きして、直接お声をいただきまして。

と、ということで、それをきっかけに、かなりの方々が県外から来ていただいて、岡山を知っていただくというチャンス、まさに初物ですから、アウェーに応援に行くのに、今回岡山初めてだから行ってみましょうということだと思っておりますが、それでも非常に多くの皆様方に、岡山の地に足を運んで、滞留していただけるこのチャンスというのは非常に大きいということで。

ともすると、岡山というのは通過点としてはよくありますよね。岡山に行ったことはないけど通ったことはあるという。そこを、ちゃんと足を止めていただけるこの機会、施設があることで相当な経済効果を生み出すことで確信しておりますので、ぜひ前向きに進めていただいて、こういったことをお話申し上げて、財界としても、寄付を募ってまいりたいと思います。

(高橋氏)

岡山商工会議所専務理事の高橋でございます。

このアリーナにつきましては、本当に考えてみれば、もう7、8年ぐらい前から、様々な面で、大森市長にもご相談申し上げ、またご提言を申し上げてきたところであります。やっと形になりつつあるなということをお聞きしました。

本当に感じております。

いわゆる事業手法方式も、本当にフレキシブルな対応をしていただき、BTコンセッションということで、民間の活力、そして知恵がうまく引き出せるような事業手法ということで、ご決定いただいたということでございます。

今後、やはりその運営について、どうようにしていくのか、どのようなチームを作っていたか、それが本当に岡山のために生きていくのか。そしてサステナブルですね。運営ができ、そしてそれが岡山市民、また県民のために生きていくのか、そういうふうな観点から、ぜひぜひ、これから企業の方に呼びかけて、これからプロポーザル等々されていくと思いますが、その検討、経過もしっかりと我々にもまた教えていただき、また応援もさせていただきたいと思っております。

最後に、ちょうどもう5年ぐらいになります、私ども岡山商工会議所が創設140周年のときに、ウェルビーイングなまちづくりをしよう、その1つの大きな柱として、新アリーナを街の1つの大きな、その力を出し、人が集まる、そういうような起爆剤というか、それにしていきたいという提言をさせていただきました。

あと5年ぐらいで私ども150周年を迎えます。そういうようなときに、もう具体的に進んでいる、形が見えてきた、そして皆さんの力が合わさってくる、そのようなことを願い、またそのような大きなうねりが生まれましますように、私ども力を尽くして参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(神崎氏)

岡山県経済団体連絡協議会の神崎でございます。

この岡山県内の経済団体の取りまとめ役を担っておりますが、この会には、単に岡山市のみならず、全県に及ぶものということで、私も参加をさせていただいております。

いよいよ具体的に、経済界としても協力をしていく、また盛り上げていくということをしていかななくてはならないと本日改めて感じた次第でございます。

来年この市役所の建替えが完成する予定になっていると思っておりますが、その7年前に、市役所の建て替えと同時に、アリーナをこの場所に作ってくださいというお願いをしたところから具体的な検討が始まったかと思っております。

場所的なものなど、いろんな課題があって困っていたところ、大森市長の方から、現在予定されているみずほ住座跡地、こちらが示されたということで、非常に最適な場所が示されたなというように思っております。

このアリーナを進めるにあたっては、先ほどからあります通り、アリーナと従来の体育館との違いということが非常に重要になっています。

岡山に必要なのか、ジップアリーナがあるからいいじゃないか、というのが論点になっています。

改めて、これからまだまだ周知をしていかないといけない、皆さんに理解していただかないといけないということを感じております。

これからは、魅力的なまちづくりを進めることによって、東京一極集中の是正、岡山にいかにかに人を残していくかが最重要課題です。経済界の一番の悩みは、関税の問題や目先のこともありますが、中長期的には、いかに街に人を残していくか、いかに地域を盛り上げていくか、そして雇用に繋げていくか、ということに尽きると思っております。企業は人材確保に非常に困っております。

そうしたことから、岡山の魅力を高めるものとして、アリーナはなくてはならないものになってくるだろうと思っております。

アメリカのエンターテインメント産業は凄いことになっています。大谷選手の年俵は、日本のプロ野球のチームが1チームまるごと買ってしまうというような年俵になっています。

スポーツの価値は、単なるスポーツじゃなくて、エンターテインメントを楽しむというものになっています。

大統領選挙でさえ、こういった場所で盛り上がるエンターテインメントになっていて、その結果が、今のトランプ政権につながっていると思ったりもします。

そういった街の盛り上がり、あらゆるところに波及し、アリーナが街の魅力の核になるものと期待しております。

岡山県経済団体連絡協議会は、県レベルの主要な経済5団体の取りまとめをさせていただいております。

県内の皆さんに理解し、協力していただけるように頑張りたいと思います。

よろしくお願いします。

(野田氏)

経済同友会の地域振興委員会の野田でございます。

今日もいろいろ情報いただきまして、特に事業手法については結構複雑な話なので、頭の中がフル回転しておりますけれども。

経済同友会の文化スポーツ委員会で、今月の4日に、ぴあ総研の笹井さんという方に講演をさせていただいております。

この方は集客エンタメ業界のプロフェッショナルで、民設民営でアリーナを建設から運営までされている会社の方ございまして、やはりこういう最先端のプロ中のプロの方の話を聞くにつけて、この民間のこの活力とかノウハウというものを、岡山市のアリーナ構想に取り入れるべきだと思いました。そういう意味で、このPFI、BT+コンセッション方式は最適だと思います。

周辺にも、近隣県にもどんどん同規模のアリーナが設立されていく中で、やはり競争力を保つためには、差別化戦略の構築を含めて、こうしたプロ集団に構想段階から入っていただいて、建築そして運営に、一貫して連携して力を貸していただくことが絶対必要だろうなと思いました。

今日も提示された資料の中に、年間収益見込みの内訳はコンサートがスポーツの7倍ぐらいで、イベントや展示会もスポーツの2倍ということなので、決してスポーツをないがしろにするわけではありませんが、特にこのエンターテインメントに重きを置いた設計というのが、今求められていくのだろうなと思っております。

作る人と運営する人が、今、このBTコンセッション方式ですか、あと、同一のSPCが担うということですけど、そのSPCから任される方が別の方になってしまうと、設計した人と運営する人が違ってくる可能性もあるので、そこは注意が必要かなと思っております。建物は作りましたので、あとの運営と収益確保はよろしくお願いしますということでは駄目だろうなと思っております。

それから寄付金については、法人向け、個人向けのパンフレットで作っていただいておりますけれども、もっといろんなバリエーションで寄付金額に応じた特典のパッケージを作って提案すると良いのではないかと思います。クラウドファンディング、SNS、そして寄付金控除制度の活用、また寄付した後の透明性、それから共感を呼ぶような、このリーフレットにもそうした部分が含まれているとは思いますが、そのようなものをもってして寄付をお願いするのがよろしいのかなと思います。

あと、企業版ふるさと納税というのは私も経験がありますが、かなり条件が厳しすぎて、相当な利益を上げてもわずかな金額しか寄附ができない仕組みになっています。

しかも、今回岡山市の企業は(企業版ふるさと納税での)寄附ができなくて、市外の企業で利益を相当上げられている企業にお願いをするということだと思いますが、なかなかここは厳しいのではないかなと思っています。

もしSPCに岡山市の企業が出資という形で参画ができて、なおかつ、この民間ノウハウの運営によって利益を上げられたものが、その出資に対するリターンが得られる可能性があるのであれば、そういったことも検討してはいかがかなというように思った次第でございます。

以上でございます。

(長澤氏)

日本政策投資銀行の長澤でございます。

私からは、事業手法の検討について少し補足ですけれども、先ほど野田さんからありました通り、先日同友会で、ぴあの方に講演に来ていただきましたが、ぴあさんは民ベースで様々な工夫をしておられました。

例えば、貸館料だけではなくて、コンサートのために必要な機材を貸し出して収益源にしたり、エリアマネジメントでコンサートの後に周辺エリアを回遊してもらうような工夫をしたりしておられ、アリーナの稼働率は8割を超えているということでした。

スポーツ施設の中でも、特にアリーナはスポーツ以外のエンタメも呼び込んで収益を上げる必要があるため、スタジアムよりも民間の創意工夫の必要がある、余地が大きいと感じておりまして、そういう意味でもコンセプションに馴染むのではないかと考えております。

それから、エリアマネジメントという考え方がとても大切だと思っております、私、先日、南船橋のららアリーナに行ってみましたが、あそこは千葉ジェッツのホームであるとともに、三井不動産さんがディベロッパーとして様々な商業施設も周りに一体的に開発されていまして、スポーツの施設、アリーナと商業施設というのが相乗効果でうまく収益も回っているように見受けられました。

岡山においても、アリーナだけではなくて、周辺も一体的に開発することがとても大切かなと思っております。

引き続き政府系の金融機関という立場でご協力をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(大森座長)

岩田さんからまた話をしてもらいますけれども、経済界の方の熱い思いが溢れ出て、1人あたりの時間が少し長くなっているの、時間の関係もありますから、これからはちょっと短めをお願いできればと思います。

(岩田氏)

事務局を担当しております、岡山市のスポーツ文化局です。

今日は様々なご意見をいただきましてありがとうございました。

リーフレットなどもご意見を参考に、レベルアップというかバージョンアップをしていきたいと思っております。

これから一生懸命、我々も汗をかいて、アリーナの必要性、それから寄付に対しても丁寧な説明を心がけていきますので、ご協力よろしくお願いたします。

以上です。

(北川氏)

ファジアーノ岡山北川でございます。

アリーナ整備に向けて、ここでいろいろな施策が出てくることを非常に嬉しく思っております。

我々クラブができることは、今与えられた環境でしっかり結果を出していくことだと思っております。

それが、この街の盛り上がりにつながっていくと思いますし、こういった施設の議論が深まっていくものだと思いますので、我々スポーツクラブは、今できることをしっかりやっていければと思っております。

以上です。

(羽場氏)

岡山リベッツの羽場です。

アリーナが進んでいるということが実感できて大変嬉しく思っています。

岡山リベッツとしても、プロスポーツチーム団体として、企業版ふるさと納税のご案内やご紹介ということを中心に全力で進めさせていただきたいと思っております。

また、我々このアリーナスポーツを実施しているチームとして、このアリーナ競技がさらに注目が集まるような施策も考えて、頑張っていきますのでよろしく願いいたします。

以上です。

(中島氏)

トライフープの中島です。

最近、僕、様々な人に出会いまして、高松のアリーナができたからかわかりませんが、岡山でコンサートを観たいとか、岡山でプロスポーツ観たいとか、様々な声を聞くようになりました。

やはりここ岡山でそれが観られる、実現するということを感じる機会が本当に増えてきました。

ですので、アリーナの必要性を岡山の方々にこれからもきちんと説明していき、スポーツチームとして、ふるさと納税もしっかりと集めて、岡山の皆さんみんなで、この岡山のシンボルとなるアリーナを創り上げていければと思っております。

引き続きよろしく願いします。

(高田氏)

岡山シーガルズの高田です。

本当に具体的に見えてきて、とても嬉しく思います。

この前、沖縄に行かせていただいて、かなり気合いが入りました。

チームが一丸となって皆様と1つになって、力を合わせて進んでいきたいと思っております。

改めまして3チームでこの後リリースさせていただいて、再度この構想の実現に向けた共同声明ということで発表させていただきます。

3チームと、もちろんファジアーノさんにも力を借りて、実現するように努力したいと思います。

よろしく願いします。

以上です。

(松井氏)

お世話になります。県スポーツ協会の松井と申します。

本当に前に進んでいるなということを実感しております。

私どもの協会を少し紹介させていただきます。

スポーツ協会には県内のアマチュアスポーツの団体が 62 競技団体加盟しております。

会員総数は 20 万人ぐらいいるのですが、その中で競技スポーツ、皆さんご承知の国スポの競技スポーツの順位を上げていこうということで、岡山県の競技スポーツのレベルアップを図っていく事業をしております。

もう一方では生涯スポーツ。今、子供を育てる立場がなかなか厳しくて、学校の地域移行であったり、それを地域に返していこう、あるいは高齢者が健康に老いていこう、という事業を行っております。

先ほど市長が言われました、スポーツの持つ力というのは多岐に渡ります。我々が想像できないような効果があります。

ぜひとも、これをスポーツと、会頭が言われました、スポーツとまちづくりを連動していただくような施策をどんどんどんどん進めていただきたい。

それで、中四国の中心なのだよということ、西部新幹線の問題もあるでしょうけど、そういうことも、何かスポーツと連動して事業化ができればいいなと思っております。

ただ 1 点、このリーフレットをどのような団体組織に配布するのか。やはり市民の納得が必須だと思いますので、その辺をしっかりと事務局よろしくご検討いただきたいと思っています。

今後ともしっかりと努力をいたしますので、よろしくお願いします。

以上です。

(林氏)

ありがとうございます。

今回の会議を受けまして、だいぶ議論が具体的に煮詰まってきたなということを感じ、うれしく思っております。ただ、これからが資金調達の観点でいうと、勝負になってくるかなと思えました。

ここまでのある程度の具体的なイメージを作り上げてきたのは、ここにいらっしゃる皆さんが、民産官学言それぞれ立場を超えて、新しいモデル、新しい価値の共創。それをチャレンジしたいというような価値共創に対する理解があつたことだと思っております。

そのシンボルであるアリーナが、さらに多くのステークホルダーを巻き込んで、岡山の将来がこんなワクワクする将来があつて、そこに向かって、皆さんが立場を超えて新しい価値を創造していこうというような動きになっていっていただきたいと思っております。

もうこれまで皆さんが仰ってくださっていることと重なりますので、一言だけ申し上げますと、民間の力を最大限に生かしていただきたいというような思いは強くあります。

それが今後の岡山における新しい公共セクターの 1 つのモデル、他の分野における、ということにもなっていっていただきたいし、一方で、リスクも発生するということは慎重に議論をしていきながら進めていくことが必要になるのではないかとことです。

それと、この話は決してスポーツの話ではないということで、極端な言い方すると、もう社会的価値、市民にどう幸せをウェルビーイングとして広げていくのだ、というようなメッセージをもっと伝えていただきたいなという思いがあります。

でも、それは決して皆さんに任せるだけじゃなくて、私も大学という立場で、今後アリーナがあるとどういうインクルーシブな街ができるのかというようなワークショップを、様々な民間の方々を巻き込んで起こして

いきたいなと思いますので、ぜひ皆さんお力をお貸しいただければなと思います。

すいません、長くなりましたが以上です。

ありがとうございます。

(三浦氏)

環太平洋大学の三浦です。

私は少し先になると思いますが、どんな中身が(施設設備、どこにもない、これからのIT技術の進化に対応できるような)できるのかなというのを非常に実は期待しています。

先ほどお話も出ましたけれども、西口で朝からラーメン屋をやっている教え子がいるのですが、ファジアーノが1部に上がったおかげで、アウェーの人が朝からラーメンを食べに来てくれると、非常に嬉しい言葉をいただいています。

環太平洋大学は、東区観音寺という田んぼしかなかったようなところにどんどん施設をつくりまして、今度もギネスに乗るだろうと思われる 200 メートルの傾斜走路ができるのですが、そうすると周りに知らないうちに民間の駐車場がどんどんできて、景色も変わりました。

それから、私たちの学生が岡山に就職をして、うちの施設をまた引き続き使い、岡山で働きたいという学生が増えてきているのですね。

ですから、そういったような様々な効果が現れてくるだろうなということを予想しながら、この議論を続けさせていただけたらと思っています。

楽しみにしております。よろしくお願ひします。

(三村氏)

岡山大学の三村でございます。

先日、サンフレッチェとファジアーノの試合を広島で観戦し、これこそがエンターテイメントだと確信しました。

また、かつてJ1の No.1 に輝いたサンフレッチェにファジが勝った瞬間、心からスポーツの力は凄いと感じました。

翌日、ZIP アリーナヘシーガーズの最終戦に参りました。今の時代では、アリーナでは無く大きな体育館なのです。新アリーナでは、その違いを「民主導」で創出したいものです。

先ほど高谷さんからMICEの話がありました。6年前に国際会議場施設協議会全国大会が岡山で開催され基調講演を担当しましたが、当時のメインテーマも、既に「企業インセンティブ」でした。

最後に、大学としては、稼ぐ力を含め、教育や文化の視点から、岡山市が持続可能に輝くための拠点建設に向けて、ご協力させていただきます。

以上でございます。

(田口顧問)

皆さん大変ご苦労さまでございます。

私が最後ということで、議会としての話をまず言います。

議会としては、やはり一定の、一部の反対者がいるのは事実であります。

今回、こうした新しい BT 方式を取り入れるという新しいことが出てきたので、おそらく6月9日と、また議論が活発になって、それぞれ議会の中で議論をしていくと思います。

私が一番思っているのは今、皆さんがおっしゃったように、やはり市民からのコンセンサスというのが一番重要になってくるだろうと。

市長のもと、やはり市民に対する負担をなるべく軽減していき、そしてアリーナをしていくのだったというこの目的の中で、一定数の反対者の人がいる、それを我々がいかに理解をしてもらえるか。

その 1 つが、市民の中に、いやいや、もう浦安の体育館もジップアリーナもある、六番川もあるのにアリーナなんかいらないうらう、というのも事実ある。

だから、先ほど言ったように、アリーナと体育館がどう違うのか、アリーナができることによってどれだけ岡山市の市民の皆さんがそれぞれ夢を持てるのかということ、やはりこのメンバーを中心としてみんなで声を出していく。

そして、市民の 1 人でも多くの方に理解をしてもらって、応援をしていただくと。そういうことをすれば、それなら僕もアリーナに協力する、私も協力する、ということで、個人で寄付をいただける可能性があるぐらいの、やはり市民にとって、市民のみんなが応援するアリーナという位置づけをどう作るのかというのが、これから一番大事だと思います。

我々岡山市議会としても、賛成者の議員はたくさんいます。そうした人たちと力を合わせて、寄附の部分で、おそらく商工会議所を中心として、プロスポーツ、岡山市、そして我々議会も何かで橋渡しでお手伝いができることは、一生懸命頑張っまいますので、みんなで力を合わせてこれからはスタートだと思っ、一生懸命頑張りますので、皆さんで協力してやっていきましょう。

そして6月9日と、また議会でも議論があると思っますので、どうぞそこは注目していただい、アドバイスをいただければ、この上ない幸せでございますので、どうかよろしくお願ひします。

今日はご苦勞さまでございました。

(大森座長)

皆さん力強いご発言ありがとうございました。そして言い足りなかつた方がいらつしやいましたら。

はい。では、会頭。

(松田副座長)

BT コンセッションということで今日、方向が決定をしたわけでございますけども、もうこれは企業誘致ということに等しいと考えています。

ですから、岡山市がどういふ企業グループを選んで BT コンセッション方式で進まれるかということは、今後の寄附の推進については大変重要なことだと思います。

例えば、広島の今出てきましたエディオンピースウイングのスタジアムは、エディオングループが 30 億、それからマツダグループが 20 億というコアを作っ、企業の寄附を募ったわけですけども、岡山はそういう方式だとなかなか難しいわけでございます、広く薄くという企業の扱ひ方をしないと難しいなと思っています。

そんな中で、何かしらピンといひましようか、杭がないといけないだろうと思っ、両備グループとして5年間で、企業版ふるさと納税で 5 億円は努力して集めようと思っしておりますので、言ってみれば 50 億で考えれば 1 割ということ、そのぐらひのことはお約束させていただこうと思っしておりますので、ぜひ皆さんで協力していただきたいと思っます。よろしくお願ひします。

(大森座長)

皆様どうもありがとうございました。

経済界の皆さん方からすばらしく力強い発言をいただき、最後は松田会頭から具体的な数字まで飛び出してまいりました。

プロスポーツ界も、今日は表明をしていただくと、前向きに動いていこうという話をされるというように伺っているところであります。

またスポーツ協会、各先生方のご意見、いわゆる社会的な価値といえますかね、これが一体どう繋がっていくのか、そのあたりの分析をきちっとしていく、また、まちづくりにも大きく寄与していく、そういったところを我々も整理をしながら、市民県民の皆さん方にいろいろと説明をしていきたいなと思います。

で、これから資金調達、具体的には寄附の話が動いていくわけですが、これでいけるという段取りになったときには、我々としては、次のステップ、いわゆる事業の推進ということで、具体的な事業化について議論をしていきたいというように思いますが、とりあえずは、全体の財源構成がこれならいけるという段階まで、みんなで動いていくということにさせていただければと思います。

その他ですが、その他として事務局からよろしく願います。

(事務局)

第3回のアリーナ整備検討会議におきまして、北長瀬未来ふれあい総合公園とアリーナ候補地との一体的な利用についてご意見をいただいております。

そちらの検討状況につきまして、資料5により都市整備局より報告をいたします。

では、都市整備局より報告いたします。

私は都市整備局道路部の是友と申します。

着座にて報告させていただきます。

よろしく願います。

先ほど申しましたように資料5をご覧ください。

資料上段になりますが、昨年11月20日に開催した第3回アリーナ整備検討会議の中で、アリーナへの歩行者のアプローチは、安全性も考えたときに、平面の方がよいのではないかというご意見がありました。

また、北長瀬未来ふれあい公園とアリーナの一体性も考えるべきというご意見もありました。

こうしたご意見を踏まえ、アリーナへの歩行者のアプローチについて、内部で検討を進めており、現時点での検討内容について概要を説明いたします。

資料下段の表をご覧ください。

左の枠には、現計画として、これまでお示しているアリーナと北長瀬未来ふれあい公園とをデッキでつなぐ案を示しております。

黒の矢印が自動車の動線、青の矢印が歩行者動線を示しております。

そして、右の枠に示しておりますが、この現計画の他にアリーナへの平面アプローチ、また、公園との一体性を考えた場合、アリーナと公園との間にある市道、こちらを一部廃止して自動車の通行禁止とし、公園区域とすることを1つの案として検討しております。

この案につきましては、平面での移動空間を確保することで、移動経路が分散し、青い矢印2つ書いておりますけれども、分散し、歩行者がよりスムーズにアリーナに移動できる。

災害時などにおいても、アリーナと公園の間を安全に行き来できる。

そして、アリーナの前にオープンスペースが生まれますので、アリーナでの試合開催時やコンサート開催時に、飲食または物販の販売ブースの設置、あるいはイベント開催などが可能となり、にぎわいを創出される。

そして、アリーナと公園との間にある市道に2つの信号交差点、これ公園の南に2つ信号マークつけておりますけど、この信号交差点を1つに集約することができ、自動車の流れがスムーズになる、といったメリットがあることが見えてきました。

一方で、右の枠に書いてあるように、アリーナ北側の駐車場へアクセスできる道路は東側の1路線のみとなりますので、駐車場に出入りする自動車によって、周辺道路への渋滞発生の懸念があります。

いずれの案にいたしましても、試合開催時などには、多くの自動車での来場が想定されております。

アリーナ建設後を想定した交通解析を行って周辺道路への影響分析することで、アリーナを建設した場合の適切な道路計画や、来場者の交通手段について検討を行う必要があると考えております。

以上です。

(大森座長)

ありがとうございます。

これもアリーナが実現したら結構大きな問題だろうというように思いますが、何かご質問やご意見がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

これは岡山市だけですべてが整理できる問題ではありませんので、関係機関とも十分調整しながら、これからやらせていただければと思います。

本日は、活発な議論をいただきましてありがとうございます。

それでは、進行を事務局にお返しします。

(司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、第5回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。